

## 2023年 新年のご挨拶

謹んで新年のお喜びを申し上げます。

また、日頃より労働組合の各種取り組みにご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年もどうぞ宜しくお願い致します。

新型コロナの感染拡大・縮小が幾度と繰り返され、「第8波」とともに「令和5年」を迎えることとなりました。日本で最初の感染確認は2020年1月15日であり、早くも丸3年が経過しようとしております。改めて、時の移ろいの早さに驚いているところです。国内においては、昨今の急激な物価高騰など厳しい状況ですが、全国旅行支援も1月10日より再開されるとともに、海外からのインバウンドの増加もあり人的交流が今後も増加することが想定される中、季節性インフルエンザとの同時流行も懸念されていることから、経済活動と感染拡大防止の両立が求められています。コロナ禍が継続する中、労組活動においてはオンライン会議が定着し、上部組織や外部のウェビナーも数多く開催されるとともに、感染拡大防止策を講じた上での集合会議も開催しつつ、役員の資質向上および組織力の底上げを図ることができたと感じております。

昨年（2022年）を表す漢字は「戦」とされました。記憶に新しいところでは、サッカーW杯カタール大会における熱戦を思い出すところですが、日本がドイツやスペインといった強豪国に勝利してのグループリーグ突破は、1993年10月28日の「ドーハの悲劇」でピッチに立っていた森保監督を先頭に「ドーハの歓喜」をもたらし、感動に包まれた大会となりました。一方、ロシアによるウクライナ侵攻が継続しており、“戦争”が起きている事実も忘れてはなりません。核兵器使用を示唆するロシアだけでなく、弾道ミサイルを連発する北朝鮮や台湾有事への懸念など“平和”が脅かされる事態となる中、抑止力のための敵基地攻撃能力保持や軍備増強に向けた予算策定、増税といった論議の前に、本来果たすべき外交政策について国民にアピールしてほしいものです。

じっかん じゅうにし みずのとう

さて、2023年は「卯年」、十干十二支では「癸卯」となります。「癸」は順序で言えば最後にあたり、“一つの物事が収まり、次の物事への移行をしていく段階”を表し、「卯年」のウサギは「茂」という時期であり、“繁殖する、増えるという段階”とされています。したがって、その両方を備えた「癸卯」は“去年までで様々なことの区切りがつき、次へ向かっていく、そこに成長や増殖といった明るい世界が広がっていく”と解釈することができるとされています。（諸説あり）

労組としての「成長や増殖」は、「役員育成や組織拡大」に置き換えられ、組織強化につながるものと考えます。役員育成については、上部組織等が主催するウェビナーの活用はもとより、NDS労組独自学習会についても企画して参ります。また、組織拡大については、具体的なターゲットを絞り、感染症対策を講じつつ、本部・支部が連携し職場ニーズに即した対応を進めて参ります。ウィズコロナ／アフターコロナの今こそNDS労組に集う仲間の総力を結集し、すべての働く仲間が安全で安心して働ける魅力ある職場づくりの実現につなげていきましょう！

最後になりますが、組合員ならびにご家族の皆様方が本年も幸多き一年を過ごされますよう心よりお祈り致しますとともに、旧年中と変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、新年を迎えてのご挨拶とさせていただきます。

以上

2023年1月吉日

通建連合NDS労働組合  
執行委員長 松本 佳典